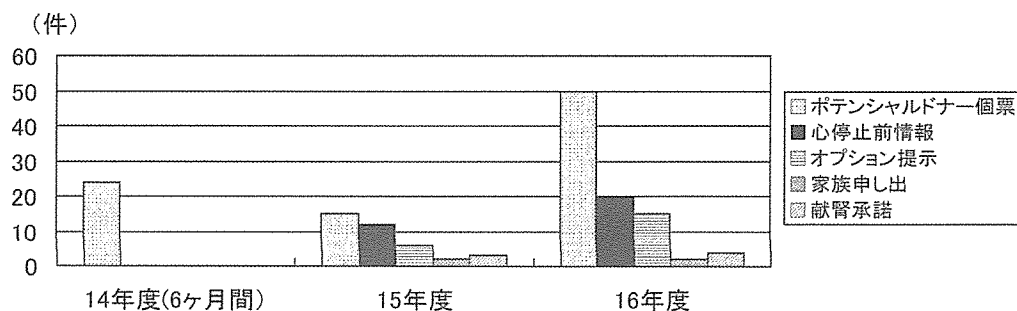


【表2】 調査協力施設 (施設名が網掛けされているのは献腎移植施設)

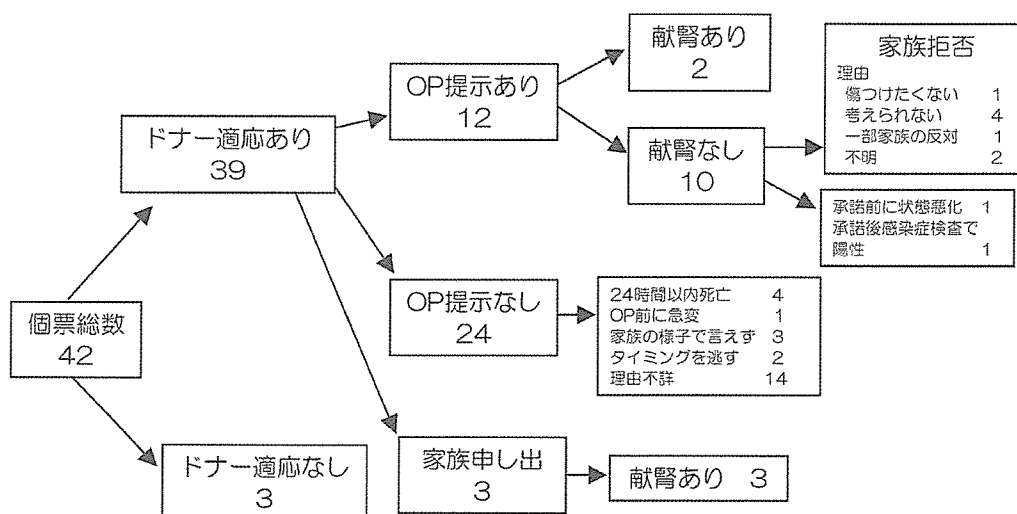
施設	病床数	調査対象科	調査開始時期	ドナー適応個票数 (うちアクティブ情報)	ドナードカード所持	オプション提示	家族からの申し出	腎提供
A	650	救命センター	14年10月	35(11)	0	6	3	4
B	513	脳外科病棟	15年3月	8(7)	0	4	0	1
C	683	救命センター・脳外科・神経内科病棟	15年5月	12(6)	0	7	1	1
D	320	ICU	15年7月	4(4)	0	3	1	1
E	544	ICU	15年12月 (16年休止、17年1月再開)	6(0)	0	0	0	0
F	464	ICU (脳外科担当患者のみ)	16年3月	4(2)	0	0	0	0
G	730	全科	16年7月	20(1)	0	1	0	0

アクティブ情報=患者の死亡前に情報を入手できたもの
 オプション提示=医療者からの臓器提供の選択肢提示

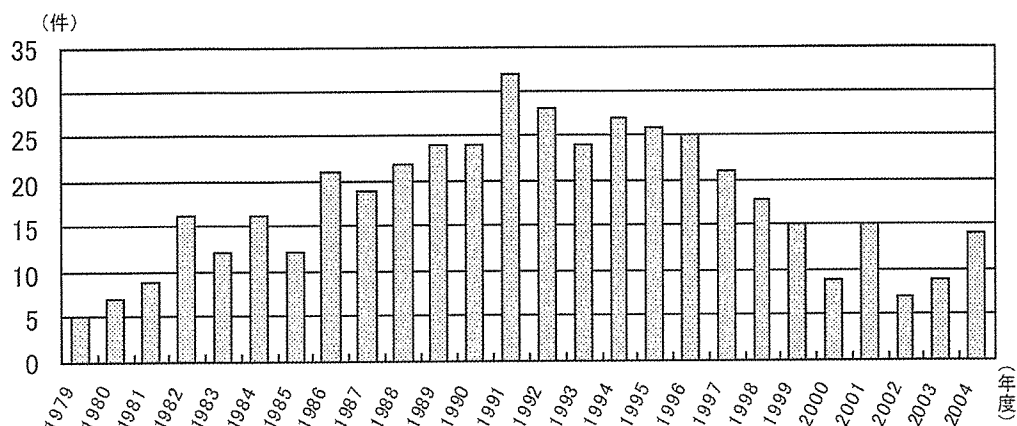
【図2】 ポテンシャルドナーに対するアプローチの推移



【図3】 個票の分類 (OP=オプション)



【図4】 愛知県における献腎ドナー数の推移（年度）



率は三二%（二二／三九、十五年度は二〇%）、オプシオン提示からの提供率は一七%（二／一二、十五年度は二五%）であった。しかし、オプシオン提示されたが献腎につながらなかった二例は、医学的理由で提供には至らなかったものの、家族の意思としては臓器提供を希望されていた。ドナーカード所持例は、一例もなかった。家族からの臓器提供の申し出三例は、すべて献腎につながった。この三例はすべて、家族申し出前にポテンシャルドナーと認識されており、もし家族申し出がなければ、主治医がオプシオン提示をするつもりであった。

(4) 愛知県のドナー数の年度別推移と内訳
十六年度東海北陸七県の死体ドナー数は二十七件（腎提供のない二件を含む）、うち愛知県は十四件であった（十五年度はそれぞれ十九件、十件）。愛知県ドナーの十四件中オプシオン提示は八件、家族からの申し出は五件（うち一例は意思表示カード所持）、所持品より意思表示カードが発見されたケースが一件あった。意思表示カード所持二例のうち、一例は脳死下臓器提供（腎提供なし）となった。十六年度の提供施設数は八施設で、うち四施設は本調査協力施設であった（十五年度は八施設中一施設）。

6. 考察

(1) 十六年度の愛知県ドナー数は、前年度に比べ増加した。本調査実施施設からの献腎が愛知県ドナー全体の三六%を占めていることから鑑みて、潜在力のある救急医療施設で本調査を導入すれば、愛知県の臓器提供数はもつと増加すると思われる。

(2) 図2からも明らかのように、本調査の進展にともない、オプシオン提示が増加するといえる。施設Aのように、院内移植コーディネーターから主治医への働きかけが院内体制として確立し、奏功した施設もある。

(3) 十六年度は、オプシオン提示数は増加したものの、承諾・提供数は特に増加しなかった。今後、オプシオン提示に対する承諾率をあげる試みが必要である。それには、一般社会に対する移植医療への理解浸透のための効果的なアプローチが欠かせない。

7. 結語

愛知県では、「臓器提供の実態に関する調査」の実施により、提供数に一定の効果が見られた。調査の派生的効果としては、調査により①院内移植コーディネーターの活動内容

が明確化され、その存在認知ならびに活性化につながること、②医療スタッフのポテンシャルドナーに対する理解と認識が深まり、移植医療の意識向上に資することが考えられ、院内啓発においても有効だと思われる。

移植医療は、死後臓器を提供したいと願う人の存在の上に成り立つ医療である。平成十六年の内閣府世論調査によると意思表示カード所持率は一〇%をこえたものの、実際の臓器提供数には反映されていない。移植医療に関する意思決定と一般普及啓発の成果という観点からは、家族から臓器提供の申し出があるのが好ましいと考えるが、現状では医療者からのオプシオン提示は患者・家族の最期の意思の把握のために有効である。今後も、本調査を発展させ、臓器提供の意思を無駄にしない院内体制整備を臓器あっせん機関として支援していきたい。

謝辞…調査にご協力いただいた施設の関係者の皆様に、この場をお借りして、心よりお礼申し上げます。

ぬり絵コーナー作品展

臓器移植普及推進活動の一環として、今年もあいち県民健康祭で「ぬり絵コーナー」を行ないました。九月十七日・十八日の二日間で一才から十一才までの二五六名の方が参加してくれました。

「ぬり絵」は、腎臓を提供してくれた小児の方が遺された絵に、参加者が色をぬったものです。

臓器提供という尊い行為に感謝し、心のやさしさ、命の大切さに思いを寄せる、そんな心を込めてみんなでぬりました。

「ぬり絵作品」はこちらに展示しました。

愛知県庁地下連絡通路

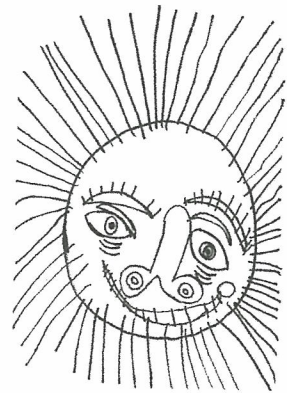
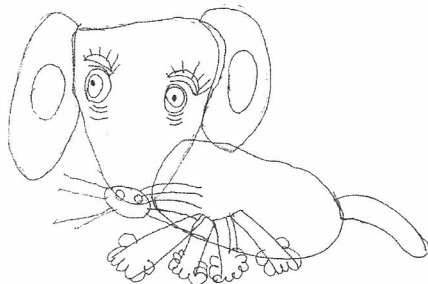
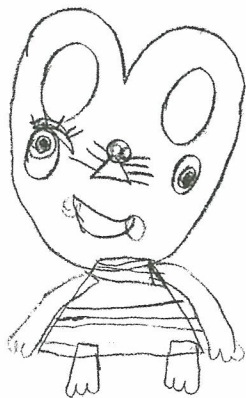
十月三日～十月二十八日

愛知県民生活プラザ

十一月十八日～十一月三十日

大名古屋ビル献血ルーム

平成十八年一月十一日～一月二十五日



この絵は小児の方が遺された絵の一部です。これらの絵に色をぬりました。